

## 2019年度 児童養護施設 光明童園 事業報告

### 1. 事業目的・経営方針

スローガンである「和顔愛語」を基調に運営し、「よろこびあえる光明童園」を目標テーマとして、職員一丸となって利用者の支援にあたった。事業計画・生活指導計画など、昨年度の理事会で承認された計画の通り、ほぼ実行に至っている。また、2015～2019年度の中・長期事業計画を見据えながら事業運営を行ってきた。

### 2. 組織体制

#### ①入所者定員

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
定員	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70	70
現員(1日付)	57	58	58	58	60	60	63	63	65	65	66	67
一時保護(1日付)	1	1	1	2	1	1	1	2	1	2	1	1
入所率(1日付)	82.9	84.3	84.3	85.7	87.1	87.1	91.4	92.9	94.3	95.7	95.7	97.1
入所	3	0	0	1	1	2	2	2	0	0	2	0
退所	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	3

□1 定員：70名（本体施設34名、分園型小規模グループケア6名、地域小規模児童養護施設30名）

□2 入所児童：13名（未就学児3名、小学生3名、中学生2名、中学卒以上5名）

□3 退所児童：4名（進学2名、就職1名、措置変更1名）

□4 年間入所率：89.9%

#### ②児童編成（2020.3.31）

	3歳未満	未就学児	小学生	中学生	高校生	大学/専学	その他	合計
男	0	7	14	10	3	0	1	35
女	0	6	8	5	9	0	3	31
合計	0	13	22	15	12	0	4	66

※一時保護児童含む

#### ③職員構成（2020.3.31）

統括園長	1	ケアワーカー	34
基幹的職員	1	個別対応職員	1
里親支援専門相談員	1	家庭支援専門相談員	2
心理療法担当職員	1	職業指導員	1
栄養士	1	看護師	1
調理員等	4	事務員	2
常勤職員			50
宿直専門員	8	ケアワーカー補助	2
調理補助	1	事務員補助	1
嘱託医	1	産業医	1
非常勤職員			14
合計			64名

#### ④職員配置（2020.3.31）

	ホーム名称(児童数)	利用者性別	常勤職員	補助	宿直専門
本園ユニット (1F)	ぼだいホーム(5)	男	8	1	0
	ひすいホーム(5)				
	こはくホーム(6)				
	みのりホーム(3)				
本園ユニット (2F)	こころホーム(1)	女	8	0	0
	なごみホーム(5)				
	うららホーム(5)				
	かなでホーム(3)				
分園型小規模グループケア	くるみホーム(6)	女	3	0	1
地域小規模児童養護施設	慈光ホーム(6)	女	3	1	2
	和光ホーム(6)	男	3	0	1
	ひびきホーム(5)	男	3	0	1
	えそらホーム(5)	女	3	0	1
	いぶきホーム(5)	男	3	0	2

### 3. 児童処遇

#### 【1】養護

##### ①食育

※別紙1

- 1 ひかり農園で食物の栽培
- 2 リクエストメニューの実施
- 3 ホーム DE クッキングの実施
- 4 献立表に栄養量の表示

##### ②健康管理

- 1 嘱託医健康診断 (4/20・9/14)
- 2 法定予防接種
- 3 その他任意の予防接種

##### ③行事

※別紙2

旅行などの行事を棟またはホーム単位で企画・運営し、利用者自身が参画する形で計画等も行った。また、熊本県養護協議会主催の施設スポーツ大会、地域や学校が主催の行事やスポーツ大会にも積極的に参加した。

##### ④性(生)教育

- 1 性といじめのアンケートの実施 (年2回)
- 2 中高生と性や男女交際等について気軽に語り合う「トーク&トーク」の実施
- 3 『性と生プロジェクト』を性教育委員会として組織。

##### ⑤情操教育

- 1 西念寺本堂をお借りしての勤行への参加促し (月1回)
- 2 新小学一年生初参式への参加 (4/6)
- 3 花まつりへの参加 (4/6)
- 4 西念寺一泊子ども会への参加 (7/20・7/21)
- 5 小5・6男児の児童念仏奉仕団への参加 (7/30・7/31)
- 6 報恩講法要大速夜への参加 (11/22)

□7 浄土真宗本願寺派全国児童養護施設連絡協議会職員研修会への参加

## ⑥家庭支援

※別紙3

家庭支援専門相談員を中心に、児童相談所や市町村福祉課などの関係機関と連携を取りながら、スムーズな家庭（保護者）支援・対応を行った。また、親子訓練室を積極的に活用することで経済的な負担の軽減及び、家庭復帰への段階的な支援を実践してきた。また、保護者へのバースデーカード等、より良い親子関係の構築へとつなげる為の取り組みも行ってきた。

## ⑦地域小規模児童養護施設

直接処遇職員3名と非常勤職員（ケアワーカー補助/宿直専門員）という職員配置のもと、5つのホームを運営してきた。6名以下の定員、完全調理という環境のもと、より家庭的で個別的な支援を行ってきた。また、地域行事にも積極的に参加している。

- 1 慈光ホーム（女子）
- 2 和光ホーム（男子）
- 3 ひびきホーム（男子）
- 4 えそらホーム（女子）
- 5 いぶきホーム（男子）

## ⑧分園型小規模グループケア

直接処遇職員3名と宿直専門員1名という職員配置のもと、運営してきた。地域小規模児童養護施設同様、より家庭的で個別的な支援を行ってきた。地域行事にも積極的に参加するなど、地域の方たちとのより良い関係を築けるよう意識した。

- 1 くるみホーム（女子）

## ⑨ライフストーリーワークの実践

- 1 利用者一人一人のアルバム作成
- 2 より良い自立支援や家庭支援につなげる為、LSWに関する事案やそれに伴う利用者の『つぶやき』を全体で共有する場を設けた。（月1回）
- 3 年2回行われる『性といじめのアンケート』にて、生い立ちや入所理由について触れ、利用者の生い立ちの整理等に努めた。
- 4 『つむぐ』をLSW委員会として組織。

## ⑩ホーム単位での誕生日会

園からバースデーケーキ代を支給し、利用者の誕生日にホーム単位での誕生日会を行った。さらに、ホーム内で日程調整を行い、誕生者のリクエストに応じた外食またはホーム調理を行った。

## 【II】自立のための援助

### ①自立支援

※別紙4

- 1 社会体験計画の実施  
一人につき、3,000円支給。今年度は2名申請。（八代・熊本）
- 2 外食や調理実習、おやつ買い物学習の実施（幼児・小学生対象/毎週日曜）
- 3 携帯電話所持（高校生以上）
- 4 フリータイムの導入（日曜朝）
- 5 計画的な措置延長の実施
- 6 職業指導員の配置

### ②リーベングケア

- 1 退所時に必要となる助成金等の申請

□2 就労希望者に対する支援

### ③就職・進学・学習指導

□1 就職

マツダ自動車

□2 進学

【大学・専門学校】

佐賀女子短期大学、熊本 YMCA、出水中央看護学科専門課程

【高等学校】

水俣高等学校、芦北高等学校、出水中央高等学校、湧心館高等学校

□3 学習塾

公文、GC 学習塾、小学生を対象とした「おさらい教室」、SBI キッズ英会話教室

□4 アルバイト

飲食店、宿泊施設、コンビニエンスストア、新聞折り込み、地元スポーツ大会の補助等、短期間のものも含め、高校生や就労支援中の児童 13 名が様々なアルバイトを行った。

### 【Ⅲ】アフターケア

#### ①OH (OldHikari) 会

□1 OH 会

退所児童や退職した職員が気軽に来園できる場として、12/30 に開催。参加者同士の懇親だけでなく、退所後の状況に関する情報収集も行った。本年度は 13 名の卒園生が参加。

## 4. 職員処遇

### ①人材育成

※別紙 5

□1 応援ミーティング

はっとり心療クリニック副院長の有菌祐子医師を助言者として招き、利用者に対するより良い支援を目的としたミーティングを行った。(6/14・11/26・1/28)

□2 新任職員研修 (7/2)

□3 施設見学

人吉農芸学院 (9/3)、愛の聖母園 (10/24)、大村子どもの家 (11/5)、熊本市児童相談所 (11/28)  
藤崎台童園 (1/21)

□4 援助技術研修 (7/10、1/31)

西南学院大学人間科学部社会福祉学科教授の安部計彦氏を講師として招き、ロールプレイ式の研修やケース検討会を行った。

□5 リーダー研修

毎月行われる就業改善委員会後に、委員会参加職員を対象としたリーダー研修を園長が講師となって行った。

### ②人材確保

□1 実習生や施設見学等を積極的に受け入れた

□2 実習生の受入れマニュアルを活用し、施設の特徴を活かした実習プログラムを実施し、児童養護施設に対する興味・関心を高く持ってもらえるよう配慮した。

### ③委員会活動

※別紙 6

【生と性プロジェクト】(性教育委員会)

□1 全職員に対して、『子どもに性教育をする大人のチェックリスト』を実施し、日常生活における『利

用者の性』と向き合う職員の意識向上を図った。

2 職員会議において、『日常生活における性に関する場面』について、ロールプレイ形式で学習会を行った。

#### 【チーム広報】（広報委員会）

1 広報誌『ひかりっ子新聞』を年2回発行（5月・1月）

2 ホームページの定期更新

#### 【ボラン家】（ボランティア委員会）

1 ボランティア数6名（生活見守り、絵画教室、歯科、読み聞かせ）

2 各ボランティアとの活動合意書の取り交わし（4～5月）

3 各ボランティアとの活動調整（年間随時実施）

4 県社協主催のボランティア研修に2名の職員が参加

5 市社協のボランティアセンターに依頼し、園内での研修を実施

6 各ボランティアへ今後の要望等の調査を兼ねたアンケートの実施

#### 【SKI】（就業改善委員会）

1 OH会の計画

2 第三者評価の結果に伴う改善点の検討

3 ひかりっこセミナーの計画

4 利用者アンケートの結果に伴う改善点の検討

5 職員アンケートの結果に伴う改善点の検討

#### 【つむぐ】（LSW委員会）

1 県内で毎月行われているライフストーリーワーク（以下LSW）の勉強会に参加。

2 アセスメントシート作成の為の会議の実施（月1回）

3 対象児童を決め、担当職員と共にLSWの実践を行った。

### ④福利厚生

1 プチファミリーの実施

2 職員旅行における燃料費の一部負担

大阪・福岡（8/18～8/20）、長崎（11/5～11/6）、鹿児島（10/27～10/29）、東京（12/18～12/20）、韓国（10/9～10/11）、京都（12/1～12/3）

3 職員健康診断の費用負担

4 インフルエンザ予防接種費用の半額負担

5 5連休取得の奨励

取得率：88%（※非常勤職員、中途採用者は除く）

6 誕生日休暇の奨励

### ⑤OJT面接

OJT計画表を用い、部署ごとでリーダーが中心となり、4月と9月に目標設定面接を行った。翌月には評価会議及びフィードバックを行うことで、今後の目標への気付きや、モチベーションアップにつなげた。

### ⑥就業状況の改善

1 意向調査を目的としたアンケートの実施（9月）

2 年休取得状況一覧の定期的な配布

3 就業改善委員会（SKI）を毎月開催

## ⑦職員へのメンタルヘルスサポート

### □1 メンタルヘルス『もも』

園内で有菌祐子医師と面談ができる場「もも」を応援ミーティング後に設けた。

本年度は計3名の利用があった。

## ⑧衛生委員会

※別紙7

□1 衛生委員会を設置し、労働者の健康障害の防止及び健康の保持増進を図った。

## 5. 権利擁護

### ①権利擁護及び苦情解決体制

#### □1 第三者委員会会議

2018年度分の苦情報告会議の実施。(5/17) 2019年度は年間10件の苦情があった。

#### □2 ホーム会議

4・7・9・12・3月にホーム単位での会議を実施。それぞれ目標の設定や振り返り、希望食や要望事項の確認を行った。要望事項に関してはホームごとに対応できることが殆どで、特に緊急性のある要望等はなかった。

#### □3 ホームでおもてなし

園長・統括主任が各ホームを訪問し、会食をしながらホームでの困り感等について確認を行った。要望等についてはホーム単位で解決できていることが殆どで、特に緊急性のある要望等はなかった。

#### □4 利用者用事業計画の説明の中で権利擁護に関する説明

#### □5 職員による年一回の個別面談

#### □6 児童相談所訪問調査

#### □7CAPプログラムの実施(8/2~8/4)

NPO法人にじいろCAPに依頼し、就学前・小学校低学年・小学校高学年・中学生・高校生の5つのグループに分け、8/2~8/4に子ども向けワークを実施した。

#### □8 児童養護施設における人権擁護のためのチェックリスト

児童養護施設における人権擁護と人権侵害の禁止・防止、適切な支援を行うことを目的とし、全職員でチェックリストをもとに自己点検を行った。本年度は9/9と1/20に行った。全91項目中、自立支援計画策定において、利用者の意見を十分聞くことに関して不十分だった点や、施設長が意図的に職員や子どもから定期的に話を聴く場を直接的には設けていなかった点があり、91項目中、○:88・×:3という結果だった。

#### □9 不適切なケアの予防のための自己チェックリスト

人権侵害の防止・虐待防止・職員の姿勢に関する事など、様式を新たに69項目設け、職員自身の利用者に対する支援を振り返るとともに、虐待防止に対する意識を高く持ち続けることを目的とし、全職員で自己評価を行った。(9月)

#### □10 ひかりっ子相談室

利用者の意見表明の場として、外部の有識者(対応委員)の協力を仰ぎ、利用者が相談できる場を毎月提供した。本年度は17件の相談があった。内容としては、園内での児童間トラブルや学校での友人とのトラブル等に関する相談や、施設生活で感じている不安等に関する相談が殆どで、後日、職員への報告可となっている事案については、職員がその都度対応し、対応委員会においても報告を行った。

## 6. 危機管理

### ①防災

※別紙8

□1 防災避難訓練を毎月実施

## ②防犯

- 1 水俣警察署生活安全係・ALSOK 共同で不審者侵入を想定とした防犯訓練を実施。(12/26)
- 2 水俣警察署生活安全係から、小学生以上を対象に SNS トラブルに関する講話。(12/26)

## ③事故防止

- 1 事故防止委員会を毎月開催

ヒヤリハット事案の見直しを行い、事件・事故の再発防止のための改善案の検討を行った。

ヒヤリハット事案 総数：1042 件

環境的要因	810 件	怪我（受診には至らない）	118 件
怪我（受診に至る）	9 件	怪我（数日間の治療や経過観察）	1 件
性的問題	104 件	合計	1042 件

## ④対応委員会

- 1 対応委員会の開催

事故防止委員会で検討した対応について、外部の有識者（対応委員）も交え、事件・事故の再発防止のための更なる改善案の検討を年 4 回（4・7・10・2 月）開催した。

## 7. 地域交流支援

### ①地域交流・支援

- 1 広報誌の発刊（5 月・1 月）
- 2 小学生を対象とした「おさらい教室」へ紫光ホールの提供（水・金）
- 3 ひかりっ子セミナーの開催（2/2）

吉田病院地域連携医長の興野康也氏を講師として招き、『発達症の「二次障がい」～暴力・ゲーム依存・引きこもりなど思春期の問題について～』というテーマで、児童発達支援センターにこにこと共同で開催した。64 名の参加があった。

- 4 夏休みと冬休みに地域の学習ルームとして紫光ホールの開放

夏季：16 名、冬季：11 名の利用があった。

- 5 職員派遣

#### 【園長】

水俣市社会福祉協議会評議員、全国社会福祉協議会福祉職員生涯研修講師、水俣市要保護児童対策地域協議会及び DV 防止対策地域協議会副会長、水俣市こどもネットワーク連絡会会長、水俣芦北地域教育支援連絡協議会委員、保護司、水俣高校同窓会役員、水俣市軟式野球連盟理事、熊本県要保護児童対策及び DV 防止対策地域協議会水俣・芦北地域部会、水俣市教育委員、水俣市民生委員推薦会委員、水俣高校いじめ防止等対策委員、水俣市地域福祉計画策定委員会委員、水俣市男女共同参画審議会委員、水俣市子ども子育て会議委員長、浄土真宗本願寺派熊本教区実践運動教区委員会常任委員、熊本県社会的養育推進計画 WG 委員

#### 【FSW】

水俣市教育支援委員、水俣市自立支援事業連絡協議会委員

#### 【FPSW】

少年補導員

※その他、学校 PTA 役員、水俣市消防団、市民体育祭、市民駅伝など地域行事に参加

## ②里親支援

※別紙 9

- 1 里親支援専門相談員の配置

新規里親の開拓、里親制度普及と啓発のための活動等を行った。また、家庭生活体験事業の窓口としても

活動し、本年度は夏季：4名、冬季：1名の利用があった。

### ③子育て短期支援事業

#### □1 ショートステイ

	水俣市	出水市	津奈木町	芦北町	伊佐市
利用日数	8	0	0	0	65
利用者数	2	0	0	0	3

#### □2 トワイライトステイ

	水俣市	出水市	津奈木町	芦北町	伊佐市
利用日数	16	0	0	0	0
利用者数	4	0	0	0	0

## 8. 施設整備

- 1 恵光館（本園）のメンテナンス
- 2 いぶきホーム中庭に屋根の設置
- 3 事務所改装工事

## 9. その他

### ①後援会組織 児童養護施設光明童園・児童発達支援センターにここを支える会

平成19年より発足し、児童の自立支援の為に、自動車運転免許取得費用や就職進学準備金の貸し付けや助成等、幅広い支援があった。また、地域において施設への理解を深めていく事にもつながっている。今後も積極的に広報・募集活動を行っていく。